

2 学校評価計画

奈良県立畷傍高等学校 (定時制)

教 育 目 標		日本国憲法・教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神に基づき、人権の尊重を基底とした民主的な社会の形成者としての必要な資質を養い、豊かな文化の創造に寄与する心身ともにたくましい生徒の育成をめざす。		総合評価			
運営方針		知・徳・体の調和のとれた、自主的・創造的で心身ともにたくましく活力ある生徒を育成する。					
平成29年度の成果と課題		本 年 度 重 点 目 標 具 体 的 目 標					
教 育 目 標	<p>○定通併修制度を設け、三修制によって3年生3名が卒業した。本年度もさらに多くの生徒の学習ニーズに応えられるよう、希望生徒は三年間で卒業できるように取り組ませたい。</p> <p>○生徒の日々の生活実態を把握し、基本的な生活習慣の確立や基礎学力の向上を目指す取組を継続し、適切な支援を行いたい。</p>	○規範意識の向上を図る。	○基本的な生活習慣の確立を図る。	総合評価			
		○自他を尊重する心の育成を図る。	○社会のルールやマナーを身に付けた生徒を育成する。				
		○基礎・基本の定着と進路希望の実現を図る。	○各生徒の悩みや課題の把握と理解に努める。				
		○教職員の資質と指導力の向上を図る。	○お互いを支え合い、信頼し合える人間関係づくりに努める。				
			○確かな学力を身に付けさせるため、魅力ある授業を行う。				
	○将来を見通した進路希望の実現に努める。						
		○授業公開や研修会などを積極的にを行い、自ら指導方法の改善に努める。					
		○常に研鑽に努め、自ら資質の向上を図る。					
具 体 的 目 標		具 体 的 方 策 ・ 評 価 指 標		自己評価結果			
具 体 的 方 策 ・ 評 価 指 標		成 果 と 課 題		改 善 方 策			
等 学 校 関 係 者 評 価							
教務部	観点別評価を利用した指導と評価の一体化について研修を深める。	多様な生活実態、学習歴をもつ生徒に対して、適切で柔軟な観点別評価の視点を取り入れることで、指導の改善につなげる。					
	生徒が主体的に学習に取り組む体制を確立する。	高認試験の科目合格や定通併修など学校外の学習活動の単位認定を行い、多様な学習意欲に対応する。					
生徒指導部	基本的な生活習慣の確立を目指す。	遅刻・早退届記入時に必ず声を掛け、理由を聞く。欠席連絡のない場合は家庭・職場等に連絡する。					
	規範意識の向上を目指し、集中・安心して学べる学校づくりを目指す。	・校門での立哨、通学路の巡視を行う。 ・授業中の携帯電話の使用禁止を徹底する。					
	生徒の情報を全職員が共有し、様々な事態に迅速に対応できるようにする。	夕礼、会議等で生徒の情報を共有し、迅速に対応できる体制を整える。					
進路指導部	一人ひとりが自らの適性について気づき将来の希望の実現に向けて前向きに学習する態度を養う。	進路についての情報を集めて積極的に考えてみる。 自らの適性について考える機会をもたせてみる。 夏休みを利用して進路先の見学に参加し知識をもつ。					
	人権教育部	幅広い情報の中から、多様な価値観を理解させ、自分や他人の人権をお互いに尊重できる実践力を身につける。	コミュニケーションを大切に、互いの違いを正しく理解し、明るいなかま作りをする。 人権講演会や映画会を通して人権について考え、自らの体験に基づいた人権作文を書かせる。 毎学期、職員による人権教育研修を実施する。				
		保健体育部	体育的行事を行い、生徒間の交流を深める。	スポーツ行事を年2回実施する。			
自らの身体の健康について理解させ、健康の保持増進を図る能力を育成する。			スポーツテストを実施し、各自の運動能力を自覚させる。 身体測定や健康診断の結果をもとに、自分の身体状況や健康状態を把握させ、健康な生活を行うよう指導する。				
一 学 年	基本的な生活習慣を確立し、高校生としての自覚をもたせる。	保護者との連携を密に取り、欠席・遅刻・早退を減らす。					
	挨拶や礼儀・マナーの向上を図る。	様々な場面で挨拶や礼儀・マナーについて具体的に指導し、不十分であった場合にはその場で指導する。					
二 学 年	生徒が教員に相談したり、話しやすい環境づくりに努める。	日頃から積極的に生徒への声かけを行う。生徒とのコミュニケーションを図り、生徒の些細な変化を見落とすことなく、対応できるようにする。					
	自らの進路について、意識づけを行う。	HR活動や個人面談を通じて、積極的に進路の情報を提供し、進路選択の重要性を、生徒自らが積極的に考えられるようにする。					
	学校生活での規範意識の向上を図る。	SHRや授業での起立・礼の徹底や挨拶など授業を受ける態度の指導を行う。					

具 体 的 目 標 具 体 的 方 策 ・ 評 価 指 標 自 己 評 価 結 果 成 果 と 課 題 改 善 方 策 等 学 校 関 係 者 評 価

三 学 年	規範意識を高める。	卒業年次に向けて必要な生活態度・礼儀やマナーとともに、責任ある言動を身に付けさせる。				
	確かな学力を身につけさせる。	学び方を指導する。表現力を高めさせる。				
	進路について、方向性を確立させる。	具体的な情報を提供し、考えさせたり、選択させる。				
四 学 年	最後の高校生活の充実と、進路の実現を図る。	社会人として必要な生活態度・礼儀やマナーとともに、最上級生として責任ある言動を身に付けさせる。				
		進路情報伝達や進路相談を行い、生徒の主体的な進路実現ができるよう指導する。				
国 語 科	漢字の習得に対しての関心を高め興味をもたせる。	自分の考えを文章を書いて上手に表現してみる。				
	コミュニケーションを図り意見の交流を大切ににする。	理解してわかることのおもしろさを感じて自ら取り組む。				
地 理 歴 史 科	生徒にとって身近なことから、興味や関心をもたせる。	各種メディアの資料、視聴覚教材の積極的活用を図る。				
	時代や国々による相違点を認識させる。	美術・文学・音楽等の教材を取り入れ、文化的教養を高めることを目指す。				
	歴史認識を基礎に幅広い知識を身につけさせる。	考えや思いを文章化できるようになることを目指す。高卒認定制度の受験対策を併せて実施する。				
公 民 科	生徒が授業に興味・関心を持つように、時事問題を適時取り入れ活用する。	最新のニュースや統計、情報などに注目し、授業に活用が可能な話題を積極的に取り入れる。				
	基礎的知識の習得を図るため、教材や資料を精選する。	都道府県の位置や県庁所在地など、基礎的な知識の定着を図る。プリント教材等の活用を積極的に取り入れる。				
	現代社会の問題や課題を、主体的に学ぶ視点を養う。	討論や意見交換などを通じて、自ら問題に対応する力を身につける。				
数 学 科	基礎的な技能の習得を図る。	かなり基礎的な内容から説明する。				
		自らの手で問題を解く習慣をつける。				
理 科	基礎・基本的な内容の習得を図る。	ノートの取り方の指導や振り返り学習を重点的に行う。				
	科学への興味・関心を引き出し、科学的な思考力を養う。	科学ニュースの話題や演示実験、視聴覚教材を授業に適宜取り入れる。				
保 健 体 育 科	授業を通して集団の一員であることを理解させる。	集合・整列等の集団行動を実施し、迅速な行動を身につけさせる。				
	運動をすることで楽しさや喜びを味わうとともに、出来た時の達成感を体験させる。	主として球技種目を実施し、生涯に渡って運動を続けていける力を身につけさせる。				
芸 術 科 (書道科)	書の基礎的な表現力を養う。	古名蹟を手本にして習わせる。				
	書を通して自己を表現する。	漢字仮名交じりの書を書かせる。 基本的な表現力を定着させる。				
英 語 科	英語に対する苦手意識をなくすため、自らが積極的に参加できる楽しい授業を工夫する。	表現活動を取り入れ、生徒が興味をもって学習できる授業形態をつくりだす。				
	学習内容の基礎・基本を定着させる。	復習に力をおき、学習内容を確実に定着させ積み上げていくようにする。				
家 庭 科	生活に関する基礎的・基本的知識と技能を習得させ、人との関わりの中で、生活者としての自覚と責任のある人間を育てる。	食育を中心に家族、保育の重要性を認識させ、賢い消費者としての実践力を身につけさせる。 特に、主体的な消費、行動、消費者の権利と責任、資源、環境など、ライフスタイルを考える力を育てる。				
情 報 科	情報社会に適切に参画できる能力・態度を育てるとともに、情報機器を効果的に活用できる力を身につけさせる。	情報に関する倫理的態度と安全に配慮する態度を養う。				
		情報機器を活用して、効果的なコミュニケーションを行う能力を養う。				
商 業 科	ビジネス活動に必要な知識や技能を習得させ、社会人として必要な素養の涵養を図る。	基礎・基本を重視し、問題演習をおとして知識の定着を図る。				
		ビジネス活動を計数的側面から理解させる。				